

就職指導の改善に関する研究実績報告書

学校名	北海道室蘭栄高等学校(定時制)	就職支援教員名	原 田 一 美
<p>1 活動状況等</p> <p>(1) 就職後3年以内に離職する早期離職の改善に向けた企業等との連携方策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去3年間の「新規採用実績」企業への離職状況調査アンケートを実施し、調査結果を分析した。 ・生徒の進路希望調査の結果を踏まえ、企業の求人開拓及び企業訪問を実施した。 <p>(2) 公共職業安定所やキャリアプランニングスーパーバイザー（進路相談員）等と連携した、就職に関わる効果的な支援方策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に対する就職相談やキャリアカウンセリングを実施した。 ・管内企業の雇用状況を把握し、生徒及び保護者へ随時提供した。 ・就職を希望する生徒への適切な支援や指導を実施した。 ・生徒の職業に対する理解促進を図るため、職業講話や職業体験等の講演会を開催し、企業説明会への参加を促した。 <p>(3) 上記(1)(2)に係る成果の普及について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共職業安定所等の関係機関と連携し、地域の現状分析と生徒の状況について情報交換を行い、得られた就職指導研究の成果等について、企業へ情報提供を行った。 ・アンケートの調査結果や研究成果等について、次年度4月に学校ウェブページに掲載する。 ・次年度の管内進路指導研究協議会等で事例を発表する。 <p>2 研究の成果と課題</p> <p>(1) 就職後3年以内に離職する早期離職の改善に向けた企業等との連携方策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のコミュニケーション能力の向上に向けた指導や事前の企業情報の集約方法等の改善を図って試行するとともに、試行結果の検証を連携して行う必要がある。 ・生徒の進路希望調査の結果を踏まえた企業の求人開拓及び企業訪問を早期から実施するため、ハローワーク等との連携を強化する必要がある。 <p>(2) 公共職業安定所やキャリアプランニングスーパーバイザー（進路相談員）等と連携した、就職に関わる効果的な支援方策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に対する就職相談やキャリアカウンセリングの実施は、進路相談員の着任時期の関係で就職試験開始後の実施となり、十分な成果が得られなかったため、次年度は、早い時期から開始する必要がある。 ・管内企業の雇用状況を把握し、3、4年生の生徒及び保護者へ随時情報提供できたが、1、2年生への情報提供は不十分であった。次年度は1、2年生の生徒及び保護者への情報提供を充実させ、早い時期から生徒の進路意識の醸成を図る必要がある。 			

- ・「四年制生徒」に対して、適切な支援や指導を行うことができた。
- ・1、2学年において、生徒の職業に対する理解を促進するため、職業体験や企業説明会等を実施したが、次年度は全ての生徒の意識を向上させるため、進路担当が主体となり、学校全体の取組とする必要がある。

(3) 上記(1)(2)に係る成果の普及について

- ・「早期離職の改善に向けた企業等との連携方策」の分析結果や様々な講演や行事の本校の取組について、研究報告書を作成し、管内の進路指導協議会での配布を通して他校への普及を図る。

3 次年度以降への改善策

- (1) 早期離職の改善に向け、生徒のコミュニケーション能力を向上させ、事前の企業情報の集約や応募前の事前見学等に積極的に取り組ませるとともに、学校側から企業に対し、就職希望生徒についての情報提供を行うなどして、より一層の企業との連携を強化していく。
- (2) 早期から生徒に対し、就職相談やキャリアカウンセリングを実施する。特に1、2年生については進路相談員を活用したキャリアカウンセリングや個人面談を取り入れるなどして、早い段階から希望する職種や業務に対する具体的なイメージを持たせ、生徒の進路意識の醸成を図る。
- (3) 生徒の職業に対する理解を促進するため、職業体験や企業説明会等への参加など、関係機関との連携を図りながら、生徒の自己の進路実現に向けた意欲の向上につなげていく。

4 参 考

○内定率等（2月末現在）

年 度	就職希望者数	内定者数	内定率
平成30年度	9	8	88.9%
令和元年度	3	2	66.7%

※ 資料等がある場合は添付すること。